

★談笑・談義（その一）来賓の祝辞はじまる

・この忘年会には参加すると言われていた、玉城顧問より「歩愉の会」が出来る前の沖縄エリアの現状を聞かせていただきました。10年近く崩壊状況にあったのが2年前に「歩愉の会」が立ち上がった時は、本当に嬉しかったとのこと。この状況を更に広げて欲しいと、強い要望をいただきました。

・続いて今回は「歩愉の会」の例会に初めて参加された、「こども家庭リソースセンター沖縄」の與座代表から、ご自身の自己紹介と、おかあ様の生き方に共感しており、自分もそうなりたいと常に実践されているお話を聞きました。「まず何をおいても行動してみることだ」そしてその結果を見て、「次の行動に移る」とのご意見で、私たちと同じ考えで行動していることを確認させていただきました。

・二人の祝辞が終わり、歩愉の会の参加者にバトンが渡り、最初に、平良さんから最近の出来事と自慢話などがなされました。歩愉の会に入って自分が変わってきたことを話され、今まで言えなかったことでも、素直に言えるようになってきた。多くの仲間から励まみや、温かい言葉をかけたいただき、本当に良かったと笑顔で語ってくれました。

・歩湯の会からまだ何も言ってない、崎山さんにマイクがまわり話が始まりました。不遇な時の沖縄エリアを維持してきたのは崎山さんであり、“やんばる友の会”として、社会貢献事業（障害者施設での花壇づくり）を、今でも続けています。これからは更に会員を増やすことに力を注いで行ければと思っています。と、ほろ酔い加減で話してくれました。ここで、幹事の砂川さんから、自慢話に対する賞品（高級ワイン）が用意されており、幹事独断で、「平良さん」と「崎山さん」に渡されました。